

# 令和5年度 学校評価報告

草加市立青柳中学校

(令和6年2月1日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（徳） 健康でたくましい生徒（体）	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○自ら考え実践する生徒を育成する授業改善 ○心豊かで思いやりのある生徒を育成する活動の充実 ○健康でたくましい生徒を育成する生徒指導の推進 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 ○地域とともにある学校づくり	<b>3 前年度の成果と課題</b> <b>成果</b> ○体育祭、文化祭などの行事を通常通り行うことができ、保護者や地域へ向けて本校の教育活動の成果を示すことができた。 <b>課題</b> ●不登校生徒解消に向けて、さわやか相談員、SC、SSW、支援室、子育て支援センター等関係機関とも協力し、教室復帰に向けて様々な方面からアプローチできるようにする。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校としての配置は適材適所でスムーズな学校運営につながっていた。分掌の引継ぎを確実に行う。 ●負担の大きい分掌もあり、今後精選が必要である。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研究の機会を増やし、技能の向上に努めることができた。また、テーマ・時期・方法が現状に沿う、ニーズのあるものを選定する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○感染症対策を行い、学年閉鎖等を防ぐことができた。安全点検をしたあとの改善スピードを一層早める。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○持ち出し簿の活用などを徹底し、大きな事故が発生することなく、安心安全な学校運営をすることができた。個人情報の漏洩のないよう事故防止研修を行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○行事で保護者が生徒の活動を見られる機会が多くなった。また、除草作業を形を変えて年2回行うことができた。 ●学校公開の来場者が少なく、情報の発信が課題である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○子連携教員と兼務教員が小学校と交流し、連携を図ることができている。 ●一日入学以外の交流等の活動が実施できなかった。まだ安全面の配慮など検討する事が多い。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	○授業時数は十分に確保されていた。履修漏れ等なく、見直しをもって計画した。 ●授業数と校務分掌のバランスがとれる人員確保や配置をすすめる。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用などを充実することができた。 ●基礎的・基本的な学習習慣や学力の定着が困難であった。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	○ローテーション道徳を実施することで、教材研究を深めることができた。生徒の興味関心を引くような、さらに工夫された授業作りを目指していく。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	A	○体育祭、合唱コンクール、校外学習など様々な行事を実施することができた。行事についてのスムーズな引継ぎと振り返り・次年度に向けて改善を行っていく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	A	○地域・保護者の人と協力しながら総合的な学習の時間の指導を行った。課題解決的な学習となるよう、担当を中心に研修を深めていく。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	○校則の見直しを行うことができた。次年度も共通理解のもと指導する。 ●一部校則の指導基準等、教員により統一が難しく、次年度以降も見直しが求められる事例があった。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	A	○本校OBによる進路講演会や、キッザニア職業体験を実施することができ、生徒の意識を高めることができた。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	○特別支援学級と通常学級で交流を行うなど、効果的な成果が得られている。個別の支援計画について、学校内でさらに共有していく。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	○落ちついた雰囲気ですぐ図書室の運営ができています。おすすめの図書案内などを作成し、見やすく分かりやすい運営に心がけている。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	○様々な場面でICTが活躍し、生徒の技術も向上している。 ●タブレットの破損が多く、予備台数も少ない。使い方の指導が必要である。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	○人権作文などを通して、生徒の人権に関する意識が向上した。 ●人権標語と人権作文以外の人権教育の方法を模索する必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・家庭学習ノートの活用</li> <li>・授業規律の徹底</li> <li>・思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実</li> <li>・一人一回の研究授業の実施</li> <li>・1時間毎の授業改善</li> </ul>	B	<p>○学習計画を入念に立て、テスト勉強に取り組む生徒が多かった。</p> <p>●家庭学習の習慣のない生徒が多い。継続的に家庭学習をしたり、自分が学んだ成果を発揮して、達成感を味わう経験をする生徒が少ない。</p>
	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の活性化</li> <li>・活発な部活動</li> <li>・道德教育の推進</li> <li>・いじめ撲滅への取組</li> <li>・居場所作りの支援</li> <li>・研修体制の確立</li> </ul>	A	<p>○生徒主体の行事、委員会運営を意識して行うことができた。ピアサポート活動はぜひこれからも続けたい。</p> <p>●ピアサポート活動の担当教員の負担が大きく、効果的な活用が難しい。</p>

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

○学校教育目標を踏まえて学年目標・学級目標を設定し、知・徳・体の全てにおいて目標を設定することで、生きる力を養おうとする具体的な指針をもつことができた。

○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用など充実した授業を行うことができた。

○除草作業・進路講座・学校公開などを通じて、地域や保護者に開かれた学校作りを維持することができた。

○ピアサポート活動をはじめ、いじめ撲滅に向け生徒が主体となって積極的に取り組んでいた。

**6 次年度の改善策**

●不登校生徒の数を1人でも減らす方法を多角的・多面的に考えなければいけない。不登校数が増加しているが、劇的な解決策はないため、職員が共通認識のもとに地道に取り組んでいく。

●生徒指導場面における指導の基準について、職員間の認識のずれを埋められるように研修を深め、今後も校則や生徒指導マニュアルの見直しを行っていく。

●家庭学習の習慣がない生徒が多く、継続的に家庭学習を行う努力をしたり、自分が学んだ成果を発揮し達成感を味わう経験をする生徒が少ない。家庭学習を習慣化する方策を学校として検討する。